

西安城(長安城)(世界遺産)(中華人民共和国陝西省の省都)

西安市(せいあんし/シーアンし、簡体字: 西安市、拼音: Xi' an、英語: Xi' an)は中華人民共和国陝西省の省都であり、古くは中国古代の諸王朝の都となった長安である。国家歴史文化名城に指定され、世界各国からの観光客も多い。経済的重要性から大幅な自主権をもつ副省級市にも指定されている。

地名の由来

西安(西京)とは「西の首都」の意味であるが、一般的に東アジアの伝統では、首都の名前をこのようにつけることが多かった。例えば、日本の東京やベトナムのトンキン(東京)は、「東の首都」を意味する。日本の東京は、首都を意味する京都からの方角をもとにしており、「北京」、「南京」、「西京(長安、西安)」は、中国の内陸部にある洛陽からの方角をもとにしている。

西北の突厥を防ぐために建てられた都市である。

地理

西安市は、渭河流域中部の関所盆地にあり、東経 107.40 度~109.49 度、北緯 33.42 度~34.45 度、北朝鮮は渭河と黄土高原、南隣の秦嶺にある東は、ゼロ河とハシ山地を境に、華県、渭南、商州、洛南県と接触している。西は太白山地と青化黄土台を境に、眉県、太白県と境を接し、南から北秦嶺(ナムブク)の稜線には、仏坪県、寧陝県、寧水県との境界がある北朝鮮は渭河に至るまで、東北の渭河は、咸阳市街地、楊凌区、三原、ハゲ、興平、武術、扶風、富平等県(市)と隣接している。管轄東西の長さは約 204 キロ、南北は約 116 キロである。2016 年には、西安面積は 9983 平方キロメートルであり、このうち、市街地は 1066 平方キロメートルである 地形 西安市の地質的な構造は、秦嶺にあるヒダの帯と華北の 2 大ユニットを兼ねている。今から約 1 億 3000 年前の燕山運動の時期に国を連れてきた秦嶺の北の麓には、今から約 300 万年前の第 3 期の後では、大断されているのは、南の秦嶺の溝のヒダのヒダが新しい構造で活躍していて、山を見ていると、南の南の方が高く昇進し、秦嶺山脈を作ることになりますこれと同時に、北にある中国の渭河では北華地にある渭河が落ち、風に覆われた黄土の覆い、渭河の積の共同作用で、渭河平野が形成された 西安市の海拔高度差は全国の各都市の冠を占めている高く険しい、群山の競演にある秦嶺の山地は、地との揺れが伸びやか、平坦な地の沃野の渭河平野の境目が明らかになり、西安市の地形の主体を構成している。秦嶺山脈は海拔 2000 メートル~2800 メートル、西南端太白山峰は標高 3867 メートルで、大陸部の最高峰となった渭河平原は海拔 400 メートル~700 メートルで、東北端の渭河の川底では標高 345 メートルが最も低い西安市は渭河平原の二段階に建てられた 河川 西安では川の網が密集しており、合計 54 個の川があるこのうち、渭河、ケイ川、石川河系の国境川があり、その他の河川は、秦嶺の山地や驪東南の丘陵に由来しており、ほとんどの河川は南から北へ渡って渭河の平野を経て、渭河を注入してきた黄河流域面積は全市の延べ面積の 98.46%を占めている 西安のどの川の流域面積の面積は差が大きい黒河の流域面積 1000 平方キロメートル以上あると灞河澧河。上記 3 つの河川の流域面積面積は 82.37%だった 秦嶺山地の渭河の南側の支流では、秦嶺北坡の傾斜が急で、溝谷が深く、谷峰の相間には、川の流れのように、川には次のような構造的な特徴がある 1 つは南と西北に向かって行きます川は秦嶺山地の溝に沿って溝に沿って南に向かっていて。しかし、この地形の斜面は南東から西北に流れており、地質構造の断裂帯もおおむね東南の西北に向かって行っており、水の流れの流れに沿って移動している 2 は川の幅が縦に高くなっている各河川の上流の段が秦嶺の山地を流れている時、谷が深く、坂が急に急に、急に流れているまた、このようなことができるようになると、水の流れが緩やかになり、水の流れが緩やかになります 3 は下流河川の横に揺れているのが、ぶらぶらした川の特徴を持っている渭河が北朝鮮に移転灞河、東、西に振る澧河西から東へと変身し、瀉、瀉交代が氾濫し、生地展布の古水路の形成、ながら灘灘心。4 は上流の川が曲がりくねっており、多くの峡谷が危険である秦嶺の北側には約 70 ヲ所のところがある 5 は川底の堆積物である河の源から河口へと、勾配が下がり、川が砂の力を低下させ、その上に位置したものが下流に

形成されており、規則正しい分布がある」と述べた 光流の時空分布が非均一であることは、西安内の河川の共通の特徴である豊水年と枯れた水の数をも 4 ～ 7 倍にして、一部の山間地帯の支流の数年は 10 倍の差がある。川の下流は枯れても、基本的な流れを遮断している川の中では年内の流量も大きく変化しており、毎年 2 月には枯水期に発生しており、径の量は年間量の 2% にすぎず、断流現象で、7 ～ 10 月の増水期には前年の総総量の 45% ～ 56% を占めています

歴史

「長安」も参照

西安の古称は長安であり、かつては西都、西京、大興、京兆、奉元等とも称された。古代より政治の中心地として西周から秦、漢から隋、唐の都城と十数の王朝の都として千年の歴史を有す古都である。

1369 年（洪武 2 年）、明朝は元朝の奉元路を廃止し西安府を設置、これが西安の名称の初見である・明末の李自成の反乱に際しては、西安に入城した李自成は一時長安と改称したが、清朝により再び西安と改称され中華民国まで沿襲された。1928 年、西安に初めて市制が施行され省轄市としての西安市が成立した。1948 年には国民政府行政院轄市に改編、中華人民共和国成立後は陝甘寧辺区轄市、西北行政区轄市、中央直轄市、計画単列市と改編が続き、1954 年に陝西省都、副省級市となり現在に至っている。

1900 年の義和団の乱では西太后ら皇族が戦火の北京を逃れ西安に避難している。また 1936 年には国共合作による日本政府への対抗を目指す張学良が蒋介石を軟禁した西安事件の舞台となった都市でもある。

2004 年、西北大学が日本人遣唐留学生井真成の墓誌を市内から発見して話題となったこともある。

Wikipedia による

